

CEATEC 2020 ONLINE 開催報告

21回目の開催にして、初のオンライン開催となった「CEATEC 2020 ONLINE」。10月20日(火)～23日(金)を会期として開催し、356社/団体が出展、延べ10万人以上がオンラインで来場しました。12月までオンデマンド形式で公開しています。



CEATEC 2020 ONLINE オープニングセレモニー

10月20日(火)、オープニングセレモニーとして、石塚茂樹会長による開会宣言が行われ、その模様はオンラインで配信されました。また、日本経済団体連合会の山西健一郎副会長よりご祝辞をいただきました。



コンファレンス

本年はコンファレンスもすべてオンラインでの実施となりました。ソニーの石塚茂樹副会長、慶應義塾大学の

村井純教授、NECの遠藤信博会長によるキーノートを実施したほか、ニューノーマルや5Gなどのトピックで計70本以上のセッションを展開しました。コンファレンスの各セッションは現在、オンデマンドで公開しており、12月末までご覧いただくことが可能です。

ニューノーマルテーマエリア

新型コロナウイルス感染症がもたらした「新たな暮らし(ニューノーマル)」をキーワードに、「ニューノーマルソリューションズ」「ニューノーマル社会を支える要素技術・デバイス」「デジタルまちづくり」の3つのカテゴリーのもと、持続的かつ豊かな暮らしを実現するためのソリューションやサービスなどが多数披露されました。

企業エリア

ニューノーマル、さらにその先のSociety 5.0の実現を見据えた製品やソリューション、テクノロジーなどが多数披露されました。初のオンライン開催ということで、各出展者の創意工夫にとんだ発信方法

にも注目が集まりました。



Co-Creation PARK

本年は135社/団体のスタートアップおよび大学研究機関が出展し、さまざまなアイデアやソリューションが発信されました。また、海外からも71社/団体が参画し、幅広い展示が披露されました。

CEATEC AWARD 2020

本年で10回目となる「CEATEC AWARD」は多くの注目を集めました。10月20日(火)に表彰式を開催し、経済産業大臣賞および総務大臣賞の受賞企業に対して賞状と盾を贈呈しました。

CEATEC 2020 ONLINE

12月31日(木)までオンデマンドにて展示ならびにコンファレンスを公開しています。オンライン開催だからこそ、会期終了後も、時間も場所も問わずご覧いただけますので、既にご来場いただいた方もまだご来場いただいていない方も、ぜひ年末まで、「CEATEC 2020 ONLINE」をご活用いただけますと幸いです。

■ 入場登録および入場はCEATEC公式Webサイトから

<https://www.ceatec.com>



経済産業大臣賞：株式会社東芝 マイクロRNA検出技術



総務大臣賞：富士通株式会社・国立研究開発法人理化学研究所
スーパーコンピュータ「富岳」

主催者ツアー

大臣によるご視察をはじめ、官庁幹部や海外、他産業の方々などへの情報提供など、JEITA会員企業との連携の可能性を生み出すための機会創出に取り組みました。ご協力をいただきました各出展者の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。





学生向けセミナー・シンポジウムの実施について

IT・エレクトロニクス人材育成検討会では、今年度も「CEATEC2020学生向け業界研究セミナー」、「第12回JEITA産学連携シンポジウム」をオンラインにて実施しました。

CEATEC 2020 ONLINE学生向け業界研究セミナー

CEATEC 2020 ONLINE のコンファレンスとして、New Normal時代の業界研究セミナーを10月23日(金)に実施しました。IT・エレクトロニクス人材育成検討会のメンバー企業(富士通・アルプスアルパイン・横河電機・ソニー・TDK)により、各社がコロナを契機としてどう

変化していくのか、変化する世の中にどう貢献するのかについて、事例を交えながらお話しをいただき、当日は約220名の学生が聴講しました。

なお、CEATECホームページでは2020年12月31日まで聴講可能となっております。

聴講者のアンケートでは「技術の素晴らしさを深く理解できた」、「感染対策の課題について理解できた」等の感想をいただき、我々の思いが伝わったと感じました。

また、全国から学生が参加できたことや、「チャット機能のおかげで気軽に質問できた」との声もあり、オンラインならではの良さも感じました。

【New Normal 時代の業界研究セミナー プログラム】

New Normal 時代の業界研究セミナー

挨拶 『New Normalの時代へ～世の中、そして企業はどう変わるのか～』

講師：松井幹雄氏 横河電機株式会社 執行役員 人財総務本部長兼人財戦略部長
(JEITA IT・エレクトロニクス人材育成検討会委員長)

講演1 『デジタルで世界が大変革する～これからの社会と共にチャレンジする富士通～』

講師：松本国一氏 富士通株式会社 シニアエバンジェリスト

講演2 『"New Normal時代"を支えるアルプスアルパインの安心・安全な快適操作ソリューション』

講師：飯倉昭久氏 アルプスアルパイン株式会社 技術本部IC設計部 主任技師

講演3 『ニューノーマル時代に向けたYOKOGAWAのイノベーション活動』

講師：林尚典氏 横河電機株式会社 マーケティング本部
イノベーションセンター 企画管理部部長

講演4 『「3R」(リアリティ・リアルタイム・リモート)で感染対策と感動の両立へ』

講師：島田啓一郎氏 ソニー株式会社 主席技監

講演5 『変わらず変わり続ける業界・会社・人』

講師：佐藤俊弥氏 TDK株式会社 戦略本部 経営企画グループ
イノベーション推進室室長

第12回JEITA産学連携シンポジウム

11月11日(水)に横浜国立大学大学院工学府との共催により「第12回JEITA産学連携シンポジウム」をオンラインにて実施しました。

本シンポジウムは、産業界(IT・エレクトロニクス企業)と大学(大学生・大学院生)が、未来に向けて連携していくことを目的としております。

産業界からは、村田製作所・キャノン・TDK・パナソニック各社の若手・中堅社員、研究者が登壇し、普段の仕事の様子や未来に向けた各社の取り組みを紹介しました。

聴講者のアンケートでは「各企業の会社情報に加え、

講師らの生の体験談も聞くことができた」、「各企業の技術力や業務内容など、自分の将来を考える上で非常に大切な内容で良かった」等の感想をいただき、産業界と大学の連携の大切さを感じました。

講演後には、オンライン上で学生をグループ分けし、登壇者に各グループをまわっていただき、「研究活動をしていて失敗が続くと上司から怒られるのか?」、「どうしてその企業に就職を決めたのか?」などの質問に直接応えていただきました。

登壇者からは、「他企業の仕事の魅力、やりがい伝わった。」とお声をいただき、企業同士の繋がりも大事だと感じました。

【産学連携シンポジウム プログラム】

第12回JEITA産学連携シンポジウム ＜IT・エレクトロニクス企業で活躍する先輩からのメッセージ＞	
挨拶	主催者代表：松井幹雄氏 横河電機株式会社 執行役員 人財総務本部長兼人財戦略部長 (JEITA IT・エレクトロニクス人材育成検討会委員長)
講演1	『人をつなぐ技術を支える電子部品開発』 講師：徳田勝利氏 株式会社村田製作所 高周波デバイス事業部 多層ディスクリット商品部 シニアエンジニア
講演2	『効率的なオフィスワークを世界中の働く人に～オフィス向け複合機開発～』 講師：飯田貴則氏 キヤノン株式会社 デジタルプリンティング事業本部 デジタルプリンティング13技術推進室 主任研究員
講演3	『小さな電子部品から世界を変える ～そうだったのか！入社6年目が語るエンジニアの仕事～』 講師：鈴木翔太氏 TDK株式会社 技術・知財本部応用製品開発センター エネルギーユニット開発部 第二開発室 エンジニア
講演4	『パナソニックにおける新規事業開発の無限の可能性、 個性を活かした働き方』 講師：中村雄志氏 パナソニック株式会社 イノベーション推進部門 テクノロジー本部 事業開発室 主幹
学生から講師へ質問タイム (グループトーク/60分)	
挨拶	横浜国立大学大学院 工学研究院 教授 吉川 信行氏

🍁 プログラミング体験ゲーム「アルゴロジック」

情報・産業システム部会 情報政策委員会およびソフトウェア事業委員会傘下のIT人材育成WGは、若年層をターゲットにしたITエレクトロニクス産業の人材育成活動を行っています。その一環として、2010年から一般公開してきたアルゴリズム体験ゲーム「アルゴロジック」を全面的にリニューアルし、プログラミング体験ゲーム「アルゴロジック」として公開しました。

小学校でプログラミング教育が必須に

2020年から、小学校でプログラミングが授業の中で取り扱われることになりました。小学校のプログラミング教育は、プログラム言語を使用したコーディングを教えることが目的ではなく、「プログラミング的思考」の育成を目的としています。

プログラミング体験ゲーム「アルゴロジック」は、ゲーム感覚でプログラミングを体験できる課題解決型ゲームソフトです。プログラムに触れたことのない未経験者でも、楽しみながらプログラミング的思考力を育成できるソフトを目指して開発しました。

アルゴロジックとは

アルゴロジックは、動きが書かれたコマンドブロックを並べることでキャラクターの動きを指定して課題をクリアするゲームです。JEITAのホームページ上で公開しています。パソコン、タブレット端末やスマートフォンなど、一般的に使用されるWebブラウザがある端末で使用できます。使用の際にユーザ登録やダウンロードは必要ありません。プログラミング経験がない人や苦手意識がある人向けの、小学校低学年の子供たちで取り組める易しい問題に加え、プログラミングが得意な人向けの

腕試し的な難問も用意されています。

アルゴロジックには「アルゴロジック1」と「アルゴロジック2」の2種類のゲームがあります。

アルゴロジック1

アルゴロジック1の課題は「画面上に置かれたすべての旗を取る」と「画面上に描かれたすべての線をなぞる」の2種類です。基本動作を覚えるための「ジュニア問題」と、入門から上級までさまざまな問題で構成された「チャレンジ問題」に分かれています。

使用できるコマンドブロックは、「前進」「右進」「左進」「縦横斜め8方向への回転」「繰り返し始め/終り」です。コマンドブロック上のカウンタをクリックすることで、進むコマ数や繰り返し回数を変えることができます。また、「前進」「右進」「左進」のコマンドブロックを2つ横に並べることで、2つが表すベクトル方向に進めることができます。

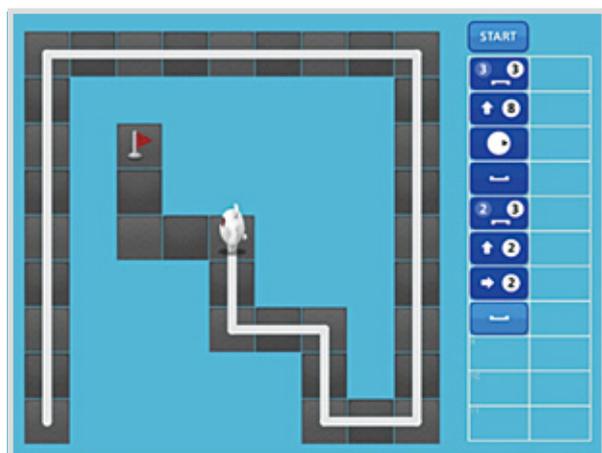
解き方の正解は1つだけとは限らず、どの解き方でもクリアすれば○が与えられます。さらに、考えられる最短のコマンドブロック列でクリアしたときには◎が与えられます。コマンドブロック列を短くする工夫は、アルゴリズムの改良であり、プログラミングを行う上でとても重要なものです。

アルゴロジック1では、プログラムの3つの制御構造のうち、「順次処理」と「繰り返し処理」の考え方を学ぶことができます。

【アルゴロジック1で使用するコマンドブロック】



【アルゴロジック1の実行中画面】



アルゴロジック2

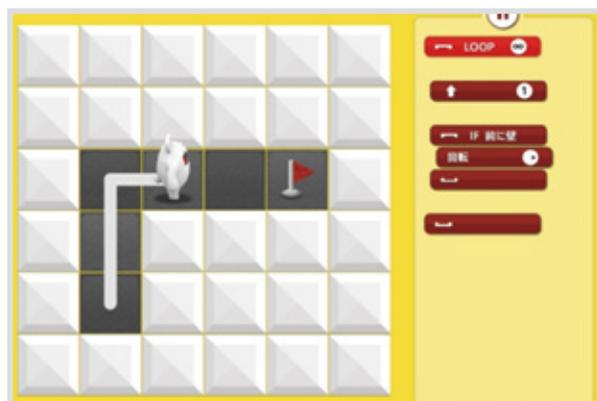
アルゴロジック2の課題は「画面上に置かれたすべての旗を取る」に限定されています。また、アルゴロジック1にある「右進」「左進」コマンドブロックは無く、回転は縦横4方向に限定しています。コマンドブロックを2つ並べたベクトル方向に進む機能もありません。その代わりに「もし前に壁があったら〇〇をする。そうでなかったら〇〇をする」という分岐処理を体験することができます。

アルゴロジック2は、分岐処理が入ることからアルゴロジック1よりも難易度が高くなっていることから、中学校や高等学校で使用されることが多いようです。

【アルゴロジック2で使用するコマンドブロック】



【アルゴロジック2の実行中画面】



おわりに

以上、プログラミング体験ゲーム「アルゴロジック」について紹介しました。

アルゴロジックの目指すところは、プログラミングの最初の段階にゲーム感覚で使用することで、子供たちにプログラミングへの興味を持たせ、学習のハードルを下げることにあります。アルゴロジックの体験は、プログラミング時の論理的思考力の育成に貢献するとともに、他のプログラム言語を学習する際の助けになるものと考えています。今後もプログラミング教育の初期段階でアルゴロジックをご活用いただけるよう、活用方法や有効性などを広く発信してまいります。

■ プログラミング体験ゲーム「アルゴロジック」

<https://home.jeita.or.jp/is/algo/>

サステナブルIT事業の始動

本年4月に始動した“サステナブルIT推進委員会”の活動について、新型コロナウイルス感染症拡大リスクに起因する劇的な社会変化をテーマとした対応も含めて、紹介していきます。

も検討していきたいと考えています。なお、傘下の会合体が担う、個別具体的な事業は、JEITAだより春号にて紹介していますので参照ください。

グリーンITからサステナブルITへ

これまで十余年にわたり、主に環境面の対応に取り組んできたグリーンIT事業について、社会課題の多様化やそれに伴う情勢の変化をふまえて、活動の見直しを行い、サステナブルITとして、発展的に改組をしました。

活動の恒久化に囚われない、柔軟性を有する体制を構築し、これまで主軸としていた、気候変動への注力を継続しつつ、さらに幅広い社会課題を対象として、デジタル技術による克服に資する活動を進めていくこととしています。(図1) また、これらの活動を通じて、関連ITビジネスの市場喚起や企業のESG評価向上につながる対応

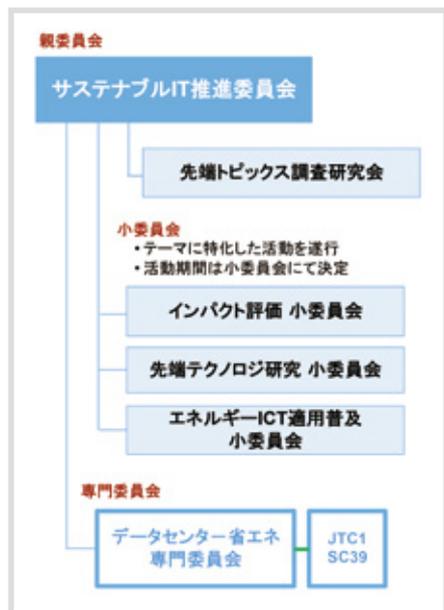
始動早々の新たなチャレンジ

改めて述べるまでもなく、新型コロナウイルス感染症の拡大は世界規模の社会問題となり、その克服の重要な手段として、デジタル化の加速が大きな波動となっています。

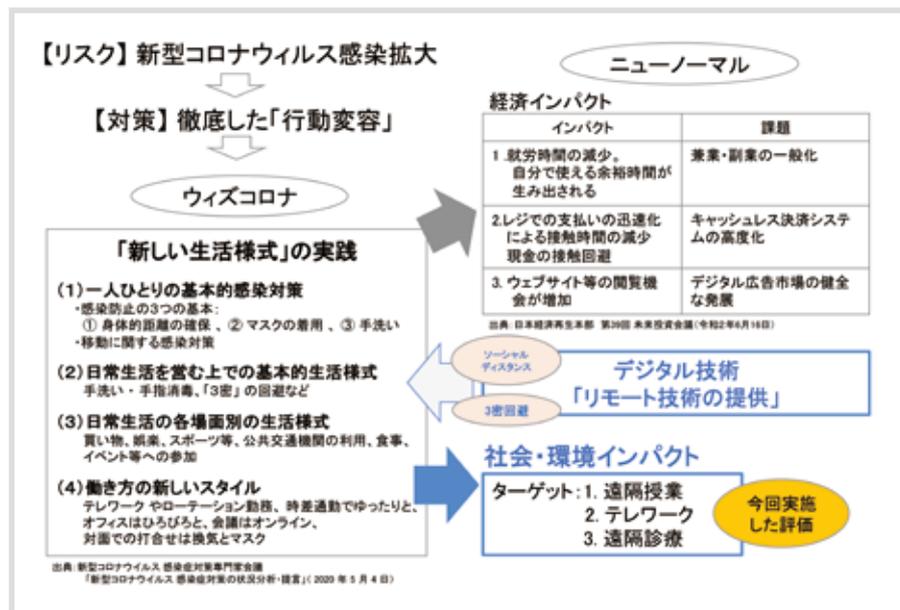
この変容は、4月に始動した、サステナブルIT推進委員会が当初想定していた事業の対象範囲を大きく超えるものとなりましたが、チャレンジに値する重要テーマとして捉え、活動を進めています。

各種社会課題に対するデジタル技術の影響評価を考察する“インパクト評価小委員会”では、ウィズコロナ、ニューノーマルを着眼点として、リモート技術が与える社会・環境インパクト評価に関する検討を精力的に進め、

【図1:サステナブルIT推進委員会 体制図】



【図2:報告書の概要】



10月に今後の活動の礎となる事項を報告書として、とりまとめました。(図2)

この事業では、リモート技術のうち、遠隔授業、テレワーク、遠隔診療を評価のターゲットに置き、各種文献や統計データの精査を通じて、社会と環境の2側面において、定量的評価で設定すべき指標について、インパクトを及ぼす機会(短期/長期に区分)との観点を変えて考察しています。さらに、これらの検討結果をふまえながら、「身体的な距離・密度」と「場所・時間の制約」の2軸におけるインパクト評価の図示化を試みました。(図3)

デジタル技術は、従来の日常や社会経済活動に導入されることで、行動スタイルの次元を変える力を持ち、更には、その波及効果により、社会・環境への一層大きな効果をもたらす可能性を備えています。

他方、一つの技術でも、ニーズや導入する場面によってインパクトは多様であり、またポジティブ/ネガティブ両面の作用が内包されています。

これらを総合的に勘案した、いわば真のインパクトを把握する方法を探り当てていくことが、当事業における今後の課題となっています。

なお、本レポート「ウィズコロナ、ニューノーマルにおいてデジタル技術が与える社会・環境インパクト」は、当委員会ホームページから全文にアクセス可能です。

<https://home.jeita.or.jp/greenit-pc/contribution/index.html>

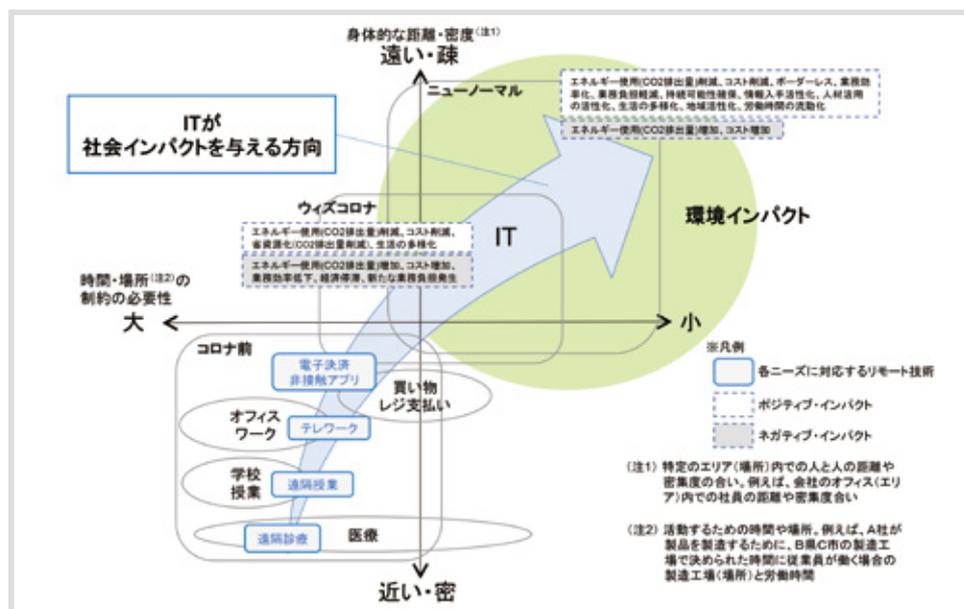
貴社におかれましても、今後の事業を進めるうえで「SDGs」、「ESG」、「サステナブル」等を重要な要素として位置付けられているところかと思えます。

“サステナブルIT推進委員会”では今後もそれらに有効な各種活動を進めていきます。ぜひ、ご参画を検討いただければ幸いです。

お問い合わせ

JEITA技術戦略部(担当:木村)
E-mail : t-kimura@jeita.or.jp

【図3:ITと社会・環境インパクトとの関係イメージ(試行)】





水中環境を次世代の新経済圏へ (ALANコンソーシアム)

JEITA共創プログラムの第一弾として発足したALANコンソーシアムは、企業・団体の枠を超えた共創により、水中光無線技術を中心とした革新的技術の社会実装と、その先にある水中環境の活用を目指し活動しています。

革新的技術の実装を目指すWGが本格始動

2020年度より、ALANコンソーシアム参画企業・団体の持つ革新的な技術の社会実装実現を目指す、3つのワーキンググループ（「水中無線通信ワーキンググループ」「水中光無線給電ワーキンググループ」「水中LiDARワーキンググループ」）を本格的に始動しました。それぞれのワーキンググループには、各テーマに関連する技術力を持つ企業・団体だけではなく、サービス事業者も参画し、実利用を想定して「ユーザーニーズに応えることの出来るソリューション」の開発に向けて議論を進めていきます。2020年度はプロジェクトロードマップ策定と開発スペックの決定に向けて検討を行い、2021年度以降早期の実証・社会実装を目指していきます。

海中環境の活用を加速させるために

「海の中の未来を語ろう」コンテストの開催

ALANコンソーシアムは、次世代を担う層（12歳以上～30歳未満／国内在住の方）を対象にした「海の中の未来を語ろう」コンテストを実施しました。このコンテストは「海中で将来こんなことが出来たらいいなと思う夢」を広く募集するもので、2020年9月7日から10月5日の約1か月間にわたって開催されました。ALANコンソーシアムの「次世代を担う皆様にこそ、海の中に関心を持っていただき、新しい技術で新たな世界を切り開いていただきたい。またコンテストをきっかけに多くの

方々にとって海の中に関心を持っていただきたい。」という思いから開催されたこのコンテストは、短い募集期間にも関わらず20代を中心に多数の応募があり、まさに「海の中の未来」と言えるような、夢にあふれた提案が集まりました。なおALANコンソーシアムによる審査の結果、以下の3作品が受賞作として選出されました。

受賞作品

■最優秀賞

『海に優しい遊園地』
(22歳・大学生)

■優秀賞

『「竜宮城」という名の海洋生物保護区
～海洋汚染について考える場を～』
(20歳・大学生)

■敢闘賞

『未来の海中におけるモータースポーツ』
(23歳・大学院生)

ALANコンソーシアムが描く海中の将来像



ALANコンソーシアムの描く未来の海中イメージ

次世代を担う層から夢にあふれる「海の中の未来」を提案いただいた一方で、ALANコンソーシアムからは「コンソーシアムの持つ技術が実装された未来の海中」をコンセプトにイメージを公開しました。今回のイメー

ジ制作においては、コンソーシアムの持つ技術が「海中レジャー」「未来の漁業・養殖」「海中探査・工事」「海中生活圏の成立」といった場面で使用されている世界観を表現しています。このイメージを現実のものにするためには、コンソーシアムの参画企業・団体だけでなく、さまざまな産業・業界のステークホルダー、そして次世代を担う層の力も必要です。水中環境から新経済圏・新産業を創出するために、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

CEATEC 2020 ONLINEへ出展

ALANコンソーシアムは、2018年より3年連続となるCEATECへの出展を行いました。2020年度は会場をオンラインへと移して開催されたCEATECでしたが、例年以上に幅広い来場者にアプローチする貴重な機会と捉え、充実したコンテンツとともにブースを展開し、会期中の来場者は800名を超えました。CEATEC 2020 ONLINEのALANコンソーシアムブースは、ニューノーマルテーマエリア内「ニューノーマル社会を支える要素技術・デバイス」にて、2020年12月31日までブースを公開していますので、ぜひ引き続きご来場ください。



ALANコンソーシアムブース

CEATEC 2020 ONLINE 主な出展コンテンツ

- ・海洋産業の創出とそれを支える先進技術のご紹介
- ・ALANコンソーシアムメンバーが取り組む水中環境活用と最先端技術のご紹介
- ・「海の中の未来を語ろう」コンテスト優秀作品プレゼンテーション

水中ロボットの活用を通じた海洋産業発展

JEITAはこの度、ALANコンソーシアム事務局として、公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構が主催する「第2回 海のアバターの社会実装を進める会」の運営を担うこととなりました。同イベントは水中ロボットの普及啓発と社会実装を目指すものであり、ロボットのビジネスや研究を行う多数の企業・有識者等の協力を得て、海洋産業発展の第一歩として開催されます。イベント内では水中ロボットに関するシンポジウムや水中ロボットの実機を用いた操縦体験等、最先端の技術を実際に感じる事ができるコンテンツを多数用意しています。現地参加者、並びにWeb参加者を一般からも募集予定ですので、ぜひお誘い合わせの上ご参加ください。

開催概要

- 場所：
 - 福島ロボットテストフィールド／オンライン配信
- 会期・概要：
 - ・2020年12月4日(金)
 - ロボット技術と産業に関するシンポジウム
 - ・2020年12月5日(土)～6日(日)
 - 水中ロボットデモンストレーション／体験会

お問い合わせ

ALANコンソーシアム事務局 (JEITA IoT事業推進部内)
 TEL:03-6268-0003
 E-mail: info_alan@jeita.or.jp



DXによる新たな事業領域の開拓 5G利活用による新たな社会デザイン

あらゆる業界・業種の150社/団体を超えるメンバーにより、「5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム」が2020年9月24日に設立されました。

活動のスコープと組織体制

本コンソーシアムはビジネスやユーザーの視点を重視した活動を推進することが特長で、デジタルトランスフォーメーション(DX)の実現に向けて、まずはビジネス環境が整いつつある5G/ローカル5Gに着目し、ユースケースの社会浸透、ビジネス領域の拡大、研究開発の促進などを通じて、業界や業種を超えた共創を推進します。

9月24日の設立総会では、座長として東京大学の森川博之教授にご就任いただき、来賓としてご挨拶いただいた経済産業省や総務省と連携を図りながら活動していくことが確認されました。

事業の実施にあたっては、「JEITA共創プログラム」の一環で、多種多様なステークホルダー(非会員を含む企業、地方公共団体等)とのオープンな検討体制を構築します。

総会の下にコンソーシアム全体のステアリング機能を担う運営委員会(委員長:三菱電機株式会社 長谷川 史樹氏)、ならびに以下3つのワーキンググループ(WG)を設置しました。

■利活用WG

主 査: 東急株式会社 本山 伸一 氏

副主査: 京セラコミュニケーションシステム株式会社
日比 学 氏

5G/ローカル5G導入の有効性やボトルネックの共有、新たなサービスモデルの提言等を通じて、利活用促進に

貢献します。

■普及啓発WG

主 査: 株式会社JTB 徳政 由美子 氏

副主査: 富士通株式会社 大島 喜芳 氏

5G/ローカル5Gに関する基本的な情報や特徴、税制や免許申請等の情報を整理して、広く情報発信することによって、ユーザーの理解促進と各事業者のビジネス支援に繋がります。

■調査WG

主 査: 日本電気株式会社 小林 康宏 氏

副主査: 株式会社村田製作所 真下 和久 氏

事業化の意思決定や制度要望等に活用できる情報を収集し、5G関連のビジネス勃興を後押しします。



コンソーシアムの役員と来賓

来賓挨拶

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課

高度情報通信技術産業戦略室長 大川 龍郎 様

総務省 情報流通行政局 地域通信振興課

デジタル経済推進室長 井田 俊輔 様

DXによる新たな事業領域の開拓 -5G利活用による新たな社会デザイン

5Gをはじめとする高度情報通信インフラは、それらをDXのツールとして利活用する側（ユーザー）が自ら目的に合わせて主体的に考え、生産性向上やサービス等の高付加価値化を図ることが重要です。また、他の事業者との共創によって、サービス等の価値はさらに高まり、やがては新たな社会システムをデザインしていくことが可能となります。

オンライン開催となったCEATEC 2020 ONLINEでは、多彩な顔ぶれによるトークセッションが行われ、進化する5Gについてさまざまな立場から意見交換がなされました。

■ 登壇者

- ・東京大学 大学院工学系研究科
電気系工学専攻 教授 森川 博之 氏
- ・株式会社NTTドコモ 常務執行役員 (CTO)
R&Dイノベーション本部長 谷 直樹 氏
- ・株式会社エムスクエア・ラボ
取締役CCO 大山 りか 氏
- ・三菱電機株式会社 開発本部
通信システムエンジニアリングセンター
標準化担当 部長 長谷川 史樹 氏

■ モデレーター

日本オラクル株式会社
テクノロジー事業戦略統括 戦略ビジネス本部
デジタル・トランスフォーメーション推進室
ブランドマネージャー 鬼澤 美穂 氏



トークセッションの様子

5Gで何ができるのか、何をすればよいのか？

本コンソーシアムの森川座長は設立総会で次のように語っています。「5Gは将来やこれからの社会を深く洞察し、強い思いを持って皆で作り上げるものです。

そのためには幅広い業界・業種のメンバーが集うことはもちろん、特にユーザー自らが目的に合わせて主体的に活用を考えることが重要であり、それを促すことが事業創出や市場の活性化に繋がります。本コンソーシアムには主体的に考え、アクションを起こしていただける方が集っており、今後の参画も歓迎します」。

本コンソーシアムの目的および事業に賛同する企業、団体等の入会をお待ちしております。

コンソーシアムの概要と入会のご案内

入会申込書の他に会員一覧と事業計画を掲載しています。
<https://www.jeita.or.jp/japanese/pickup/category/2020/200925.html>

リケジョトークイベント 「理系女性のキャリアをのぞき見!」を開催

女性活躍推進活動検討会は、女子高校生、女子大学生に、電子部品業界の魅力を知らせてもらうためのオンライントークイベントを10月23日に開催しました。

女性活躍推進検討会を立ち上げ

電子部品部傘下の人事労務専門委員会では、2018年に女性活躍推進検討会を立ち上げ、業界としてのイメージアップ、男女問わず興味や関心を持たれるような「選ばれる業界」になるための活動を実施しています。

昨年は9月19日～20日の2日間、業界で働く女性社員にフォーカスした「女性活躍推進ワークショップ」を開催しました。

そして第二弾の企画として、講談社が運営する科学と女性をつなぐメディア「Rikejo」とタイアップし、10月23日にリケジョオンライントークイベント「理系女性のキャリアをのぞき見!」を開催しました。

「理系女性のキャリアをのぞき見!」

企画立案は全てオンライン上で

イベントは当初対面での開催を予定しておりましたが、COVID-19の流行もあり、オンラインで開催することとなりました。

このイベントは、参加者の目線にも近い、業界で働く理系出身の5社5人の女性が協力して企画しました。イベントのコンセプト、キャッチコピー、プログラム内容などWeb会議とチャットで議論を重ね約2カ月かけて準備しました。参加者には、イベントを通じて、将来の働くイメージをもってもらうこと、また、キャリアの選択肢として電子部品業界を知ってもらうことを目指し企画しました。

「理系女性の
キャリアをのぞき見!」

18:00-18:55 第1部 先輩リケジョ5人によるぶっちゃけトーク
▷ 理系出身ガールズのキャリアにZOOMイン!

19:00-19:30 第2部 Q&Aコーナー
▷ 将来に対するモヤモヤを先輩に直接聞いてみよう!

高校1年生から大学院までの13人の女子学生が参加

イベントは、高校1年生から大学院までの女子学生13人の参加がありました。

第1部では、5人の理系出身の女性が、自分の進路選択やキャリア選択、また、会社の中でどのような仕事をしているかについて紹介。第2部では、Q&Aコーナーとして参加者から質問を受け付けました。5人の理系出身女性からは、自分の体験談をもとに進路、就活、仕事以外の時間の過ごし方など、参加者の質問に答えました。



参加者のアンケートでは「将来について具体的に考えることができました」、「実際の仕事の内容を知ることができてよかった」等の声をいただき、今イベントの狙いである『将来の働くイメージをもってもらう』ことに繋がったのではないかと思います。



9月度 関西支部運営部会・ 部品運営委員会合同会合講演

関西支部では9月16日(水)にリモートで開催した運営部会・部品運営委員会合同会合に、国立研究開発法人 国立長寿医療研究センターより、副院長・健康長寿支援ロボセンター長・リハビリテーション科部長の近藤和泉 氏を招き、「医療・介護現場におけるICT・ロボット利用の未来」と題する講演を行いました。



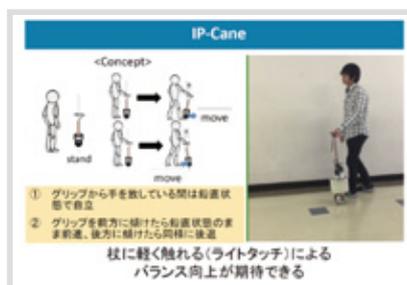
近年、医療・介護の現場では、手術・調剤の支援やリハビリテーション等にロボットの活用が進んでいます。リハビリ用途では、患者の身体に装着して用いるタイプの進歩が目覚ましく、従来の装具による訓練に比べ、より短期間で大きな効果の得られるリハビリが可能となってきました。

要介護となる方の8割以上は75歳以上の高齢者で占められます。そうした高齢者が要介護となる原因としては認知症が最も多く、「フレイル」がそれに続きます。「フレイル」とは加齢による衰弱ですが、然るべき介入を行うことで、健常状態に戻る可能性を有するものです。

フレイルを引き起こす主な要因として、サルコペニア(筋肉量の減少)、栄養障害、転倒等が挙げられます。転倒に対する恐れや羞恥心が活動量の低下を引き起こし、その結果、筋力の衰えによってフレイルが進行し、さらに転倒の可能性を高める、という悪循環の起こりやすいことが知られています(右図)。

フレイルに対処する目的で、移動の補助やバランス訓練を目的とするロボットが開発、導入され、成果を挙げています。従来の訓練に比べ、ロボットを用いた訓練は利用者に楽しんで取り組んでもらえる利

点があり、ある程度進行してしまったフレイルに対しても大きな効果をもたらします。フレイルが進行しないよう活動量を増大させる目的で、歩行者に自動で追従し、歩行者が必要に応じて軽く触れることで重心を安定させる「杖ロボット(IP-CANE)」の研究開発も進んでいます(下図)。



認知症に対しては、多様なコミュニケーションロボットが開発されています。大事な思い出は人の心を安定させる錨の役目を果たすことから、高齢者、認知症患者に昔を思い出して話してもらう「回想法」は、記憶能力の強化、積極性の増進、ひいては個人の尊厳の回復につながります。長寿医療研究センターではそのツールとして、トヨタ自動車と共同で、傾聴ロボット「ポコビィ」の開発に取り組んでいます(下図)。現状では音声認識機能に不足があり、長時間の使用に堪えない所もありますが、「杖ロボット」と同様、今後の展開が期待されます。



医療・介護分野におけるICT・ロボットの利活用と研究開発について、豊富な映像と具体例を用いつつ、現状と今後の方向性をわかりやすくお話いただき、講演後の質疑応答を含め、今後の高齢社会に向けてさまざまな示唆を与えられる貴重な機会となりました。

JEITAだよりはHPからもご覧いただけます

<https://www.jeita.or.jp>